

令和6年度 授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）

	課題分析	授業改善策
1年	<p>【算数科】 5までの足し算、引き算がスムーズにできない児童が学年に数名いた。指やブロックを使って1つずつ数えることはできる。10までの足し算、引き算になるとさらに、数えるのに時間がかかる。ゆっくり学ぶ児童にとって、教科書の指導時間では足りない。数の概念を身につける指導が必要である。</p>	<p>一つ一つ対応させるだけでは、数の概念がつかみにくいので、10までの計算では指を使う方法、ブロックを動かす方法など児童がゲーム感覚で行える足し算や引き算に多く取り組ませる。また、声に出してやり方を復唱したり、文章題や式を音読したりするなど五感を使った方法に取り組む。できるようになった感覚を持たせられる計算練習に取り組んでいく。</p>
2年	<p>【国語科】 ・5月に実施した実態調査では、文章の内容と自分の経験とを結び付けて感想をもつことが16%と低かった。感想はもてても、自分の経験と結び付けることが難しい児童が多い。 ・各時間の課題を意識し、学習シートを選択することができていない児童が一定数いる。自信のなさから、Cシートを選択する児童が5割を超えていた。 ・グループタイムやみんなタイムで、言葉によって自分の考えを伝え合うことができない児童が多い。 ・レベルアップタイムでは、新しい考えを生み出したりすることが苦手な児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教科を通して、自分の経験や既知と結び付けて感想をもつ機会を多く設定する。 ・課題を解決するために、児童が自分自身の学習スタイルを構築する機会を設定する。学習シートや学習方法、学習形態などを自身が決められる学習指導を進めていく。 ・自分の考えを形成するための考えのもち方について視点を示したり、新たな考えが生まれるような交流の方法を学ばせたりする。 ・レベルアップタイムで、視点を明確にし、青鉛筆などを使って自己調整する学習スタイルを進めていく。
3年	<p>【社会科】 5月に実施した実態調査の結果、『全体学習ですすんで発言ができる児童』は肯定的回答が64.5%と他の項目に比べて少なかった。また、『学習したことを基に、もっと学んでみたいことがある』という項目についても肯定的回答は68.9%であった。自分の考えを発言することに対して意欲がもてず、学習に対して受け身の児童が多いことが課題である。児童が主体的に学習に取り組むことができるような指導の工夫が必要である。</p>	<p>実態調査では、『グループ学習は楽しい』と答える児童が8割を超えていた。全体学習での発言を促すにはペアやグループで意見を交流することによって自信をもたせることが有効と言われているため、児童が学習形態を選択できるよう授業の流れを工夫することで児童の主体性を引き出したい。また、見通しをもたせることなども手立てとして有効であると考えられる。教科ごとの学習の流れをパターン化し、それを掲示することで学習の段階や進捗状況が把握できるようにする。</p>
4年	<p>【国語科】 ・説明文の学習では、筆者の考えとそれを支える事例について、叙述を基に捉えることができた児童は15%と低かった。 ・段落相互の関係がどのようになっているのかが分からないために、筆者の主張が正しく読み取ることができない児童が多かった。 ・物語文の学習では、叙述から登場人物の心情を豊かに想像することが乏しく、叙述に書かれていることをそのまま読み取ることしかできない児童が目立った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文では、筆者の考えや事例の読み分けができるように語尾や接続詞に着目させる学習を繰り返し行う。また、サイドラインを引いて読む学習方法を習得させて、文章の読みとばしがないようにさせる。学習方法を習得させて、文章の読みとばしがないようにさせる。 ・物語文では、登場人物の心情を豊かに想像できるように、語彙を豊かにさせる学習に取り組んだり、情景や行動にも着目させて想像が広がるようにしたりする。また、グループや全体学習の充実を図り、学習が個で終わらないようにする。
5年	<p>【国語科】 5月に実施した実態調査の結果、全体学習において『すすんで自分の考えを発表している』という児童は58%だった。一方、グループ学習では、『すすんで自分の考えを発表している』という児童が78%だった。このように、全体学習になると、自分の考えをすすんで発表する児童が20%減少するという実態が見えた。グループ学習だけでなく、全体学習でもすすんで発表することができるようになることが今後の課題である。</p>	<p>全体学習においてすすんで自分の考えを発表するためには、まずはグループでの学習を充実させることが大切である。グループ学習での話し合いで自信をつけた上で全体学習に臨むことで全体学習でもすすんで自分の考えを発表できるようになると考える。グループ学習では、話し合いの観点を示したり、話型を決めて提示したり、モデルグループによる話し合いで良いところを価値づけたり、他教科でも積極的にグループ学習を取り入れたりしていく。</p>
6年	<p>【社会科】 5月に行った実態調査の結果、すすんで自分の考えを発表している児童は、肯定的回答が51.9%、否定的回答が48.1%と、否定的回答が目立った。調べたことを全体へ共有することに抵抗を感じたり、調べたことに自信がもてなかったりする児童が多いことが考えられる。調べたいという意欲を高めながら抵抗感なく調べ活動に取り組ませ、自分の考えに自信をもたせていく指導が必要である。</p>	<p>資料を調べたり、読み取ったりする調べ活動では、資料の読み取りを容易にさせるために、調べる視点を確認してから活動に入るようにする。また、話し合い活動を充実させるために、話し合ったことをどうするかを指示を出すようにする。○分間でなるべくたくさんの考えを出し合う指示、グループの意見で同じ・違いをまとめる指示、よいところを組み合わせ一つの見解にする指示などの指示を出し、それぞれの考えが共有できるようにする。</p>
専科	<p>【図画工作科】 ・授業中の制作活動では興味をもってできているが、課題意識の希薄な児童や、自己判断で活動する児童など、様々なタイプが混在している。 ・理解力や表現の上で周囲と差があり取り組めない児童について、様々な価値観や表現方法があり、他者と違って自信を持って制作できるよう指導する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導では繰り返し指導内容を反復し、視覚的資料などで補った指導を行い様々な表現方法や素材を経験させ、より自分のふさわしい造形表現を考え、表す活動ができるようにする。 ・鑑賞活動や発表活動を通して色々な価値基準や特性を感じ取り。友達の考えを取り入れながら自分の考えを変えたり再構築したりできるようにする。